

# 子供の自覚 教師の自覚

東京都国立市立国立第一小学校

## 江見 みどり

### 一 はじめに

今改訂の新学習指導要領総則第4の2の指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項(4)に、「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」と明文化されている。

従来の学習指導においても、私たちは、その学習は何のために行うのか(目的意識)、誰に向けて行うのか(相手意識)、どんな方法で行うのか(方法意識)、どのような場面、状況で行うのか(場面意識)、どのような評価をするのか(評価意識)を意識させることを大切にしてきたはずだ。しかし、子供の学習が表面的な活動だけで終わってしまったり、やらされているだけの活動であったり、教材を教えられただけで教材で学んだ力がはつきりしていなかったり、指導内容や活動

指示があいまいだったり、ということがあったことも実際には否めない。

大切なのは、子供自身が「何のために何を学習するのか」を納得し、きちんとした目的意識をもって取り組んでいるか、明確な活動の必然性を教師自身が自覚して子供たちに投げかけているか、教師が学習活動や学習用語に対して一定の定義や指針をもって指導しているか、子供たちの学習意欲や興味・関心をかきたて、それが継続するだけの実の場を想定した臨場感あふれる学習活動が設定できているか、子供自身が課題や目的をもち見通しをもって学び、その学習過程でつけた力を生かす場が保障されているかどうか、である。

### 二 見通しをもち学習の質を高める 課題設定

学習課題は、子供が設定する場合と教師が設定する場合とがあるが、いずれにしても子

供たちにとって魅力的なものでありたい。さらに、その課題の先にあるものが見通せたり、活動のゴールが把握できたりするものがない。また、学習方法が分かり解決の見通しがもてるもの、思考力を育てられるような課題、単元終末の表現目的や場が実生活に即しており、身につけさせたい力(必要な知識や技能)が具体的ではつきりしているものがよい。教材のおもしろさによれ、子供たちが学習活動の意味を考え、主体的にかかわり自ら学ぶ意欲に突き動かされ学習の質が高まっていくような課題(言語活動の実現)を設定し、能動的な学習過程を組織する。そして、その過程において、知識・技能を活用する学習指導を展開する。「読む方法」「書く方法」「話す方法」「聞く方法」を身につけさせ、学んだことを生かせるようにする。

### 三 振り返りについて自覚する

その時間の終末や単元の終末には、必ず振り返る活動を入れて、その時間や単元で身につけた知識・技能をメタ認知させ、蓄えさせていきたい。子供に学んだことが生かされたかどうかを自覚させるのである。

例えば、今日読んだ物語が自分の生活場面にどう生きてくるか、読み取ったことが何に使えるかを考えさせる。うまくいかなかった

ときには、前に戻って見直しをしたりどこが大事だったかを考えたりする。振り返ること  
で、自己の学習や学び方を自覚することにな  
る。また、学習の振り返りを書いたり発表し  
たりすることは、新たな問題発見や次の活動  
への意欲喚起にもつながってくる。

#### 四 実践例 じぶん車くひんく (一年二学期)

##### 第一次

- ・ 題名と冒頭の一文から話の中身を予想する
- ・ 自動車について知っていることを話し合う  
(自動車の名前をカードに書いて発表)
- ・ はたらく車の歌を聞く。
- ・ カードの自動車を仲間分けする。分類した  
視点について話し合う。
- ・ 範読を聞いてわかったことを書く。
- ・ 自動車図鑑作りを計画し、読みのめあてを  
もつ。

★設疑文を読み、視点として、「仕事」と「つくり」を読み取りながら、自分も博士になっ  
て説明文を書き、クラスで合作の自動車図鑑  
をつくるという見通しを持たせる。

##### 自動車図鑑をつくるうー自動車博士への道ー

##### 第二次

- ・ 教科書の3つの挿絵を拡大したものを見比

べ、違いを見つけ発表する。

- ・ 教材文を読み、3つの事例の「仕事」と「つくり」を読み取り、違いを確かめる。
- ① 学習のめあてを確認② 音読③ 一人学び  
(サイドライン、3種類の選択ワークシ  
ー)④ 伝え合い・話し合い(ペア学習 全体  
での学び合い)⑤ 分かったことをまとめる  
(自慢話、手紙)⑥ ★自己評価と次の学習  
のめあて作り

##### 第三次

- ・ はしご車を例に説明の仕方を学習する。
- ・ 自分の興味をもった自動車について仕事と  
つくりを調べる。(並行読書、生活科との  
合科) 絵本や図鑑を読んだり、ビデオを視  
聴したり、校外で車の観察をしたりミニ  
チュアカーなどで調べたりする。
- ・ 調べたことをカードに書く。
- ・ カードを仕事とつくりに分類する。
- ・ 自動車の絵を描く。(図工との合科)
- ・ カードをもとに説明文を書く。
- ・ 書いたものを読み直し確かめる。「仕事」  
と「つくり」が書いてあるか、表記の見直  
し訂正ー★振り返り)
- ・ 書いた自動車を紹介し合う。(自由に二人  
組になり交換して読み合い、友達の表現の  
よいところを見つける。相手を褒め紹介)
- ・ 自分で夢の自動車を発明し、絵と説明文を

書く。

- ・ 発表会を開く。
- ・ 前書き、後書き、表紙を書き、自動車図鑑  
に仕上げる。

◎読むことと書くことをつなげ、書くために  
読む、読んだことを書くということを通して  
せ、児童が目的意識と必要感と見通しをもつ  
て文章に取り組んでいけるように構想した。  
筆者のものの見方、考え方に目を向けさせ、  
関係認識とその表現方法を一体のものとして  
学ばせ、その書き表し方を真似ることにより  
自分なりの考えを持てるようにする。書くこ  
とで情報を読む力と伝える力を育て、主体的  
によりよい表現を求めていけるようにする。



えみ みどり 東京都国立市立国立第一小学校教諭。  
全国国語授業研究会常任理事、使える授業ヘーシック  
研究会常任理事を務める。